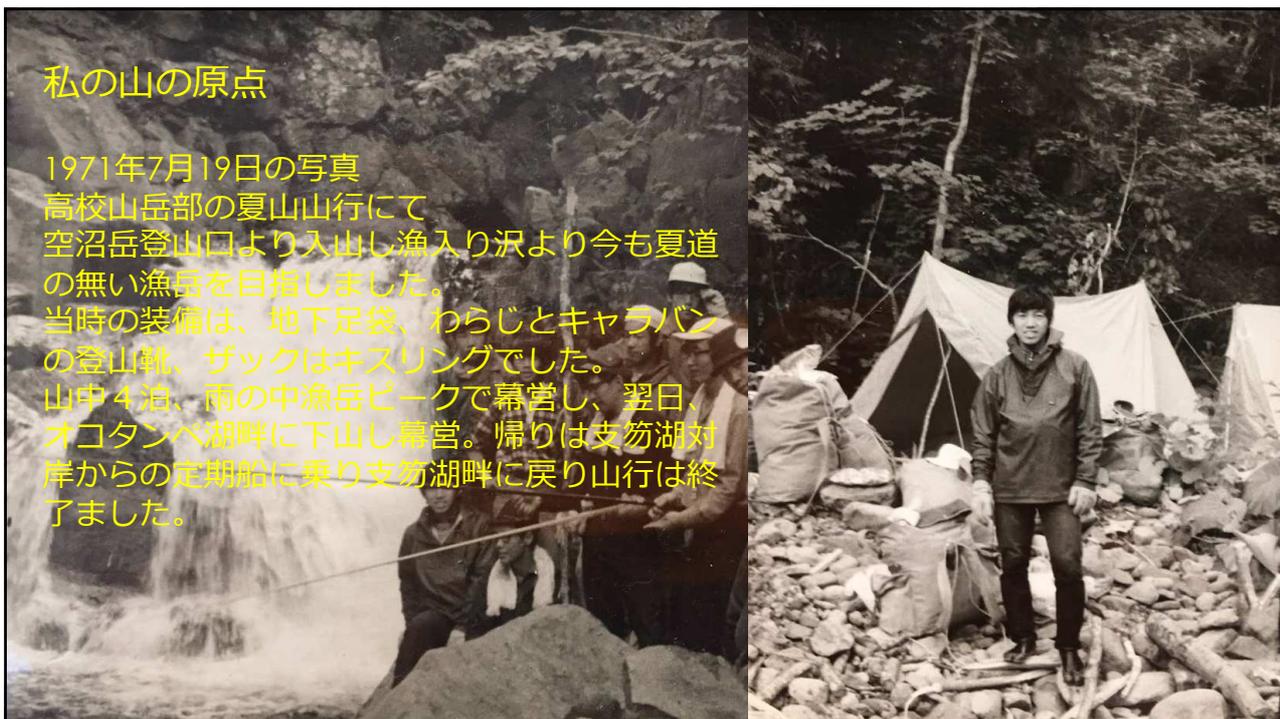


私の山の原点

1971年7月19日の写真
 高校山岳部の夏山山行にて
 空沼岳登山口より入山し漁入り沢より今も夏道
 の無い漁岳を目指しました。
 当時の装備は、地下足袋、わらじとキャラバンの
 登山靴、ザックはキスリングでした。
 山中4泊、雨の中漁岳ピークで幕営し、翌日、
 オコタンベ湖畔に下山し幕営。帰りは支笏湖対
 岸からの定期船に乗り支笏湖畔に戻り山行は終
 了しました。



2019年12月25日 キリマンジャロ登頂

(歩行距離64km・標高差5,895M)

帰礼は12月31日
 翌1月からはコロナ禍となりWHO
 よりパンデミック宣言がなされ、
 この時期を逃していれば未だ実現
 出来ていない山行でした。



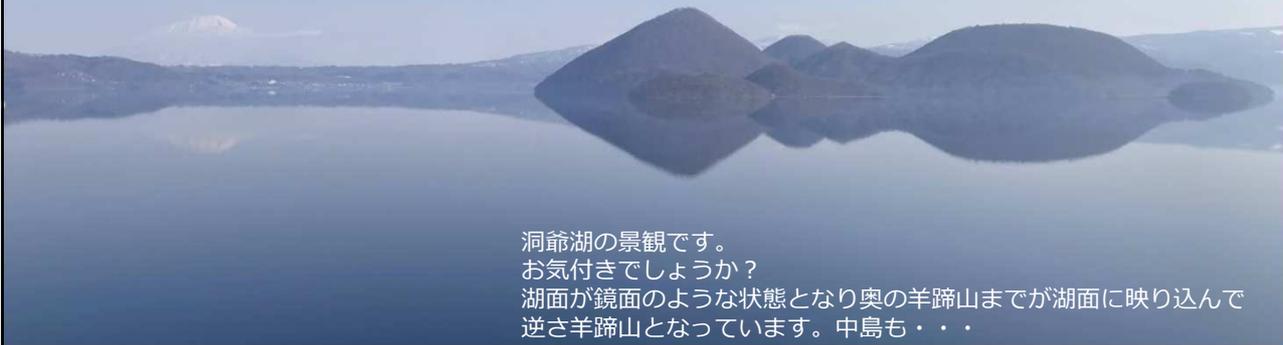


登山には
こんな楽しみもありますね...

山での嬉しい出会い？



そこに行かなければ見られない
景色を求めて!!



洞爺湖の景観です。
お気づきでしょうか？
湖面が鏡面のような状態となり奥の羊蹄山までが湖面に映り込んで
逆さ羊蹄山となっています。中島も・・・

山にはいろいろな登り方と楽しみ方があります。
皆さんはどんなジャンルに興味がありますか？

無雪期の一般登山

■ 海外トレッキング



海外の高峰を眺めてゆく徒歩の旅。日本にはないスケールの大きな山岳風景に驚いたり、現地の人々の温かさにふれられるのが楽しい

■ 縦走登山



軽量化されたテントを担いで天地の境を行く。日本の山には縦走登山でたどるすばらしいロングコースがたくさんある(飯豊連峰)

■ ハイキング



軽いザックと柔軟な心をもって自然のなかを歩くハイキング。健康な体があれば何歳になっても続けられる(奥武蔵・笠山)

積雪期の一般登山

■ スキー登山



雪山で行なわれるため、その困難・危険性も雪山登山と共通である。軽い気持ちで入山してはいけない(北アルプス・白馬大雪渓)

■ 雪山登山



雪山には強風、低温、積雪、雪崩など多くの危険が潜む。真剣に雪上登山技術を学んで身につけてゆくことが重要(南アルプス・仙丈ヶ岳)

■ スノーハイク



雪の積もった低山や原野で楽しむハイキング。最近はスノーシューを使う人が多いが、クロスカントリースキーやワカンでもできる

山と溪谷社
登山技術全書 登山入門より

バリエーションルート

■ ヤブ山登山



自分で地形図上に設定したルートをたどったり、廃道と化した歴史上の道を踏査したり、県境稜線を忠実にたどったりする。マニアックな上級者向けのゲーム(中央アルプス南部)

■ 沢登り



沢づたいに遡行して山頂をめざす日本独自のジャンル。山の最深部へと入り込んで原始の自然にふれる試みでもあり、山の自然美を充分に楽しめる優れた登山形式だ

■ クライミング



現代のクライミングは多数のジャンルに分化しているのが特徴だ。複数のジャンルに取り組む、総合力のあるクライマーをめざしたい(谷川岳・一ノ倉沢南稜)

山と溪谷社
登山技術全書 登山入門より

山を求めて長距離移動も
知床へ移動中の景観を楽しむ



国後島から登る朝日に送られて知床岳へ出発







世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」と熊野三山・伊勢神宮参詣
大台ヶ原(日出の山)大杉谷ルートを経て檀原神宮参拝と畝傍山(411m)



熊野古道

健康であれば山は登れます。
山はライフスポーツ



熊野古道 小辺路

高野山から熊野三山へ最短距離で結ぶ、険しい道

熊野古道 小辺路は、高野山と熊野三山の両霊場を最短距離で結ぶ道。
紀伊半島中央部を南北に縦断し、途中には伯母子山をはじめとする標高1,000m以上の峠を三度も越える、熊野参詣道の中でも最も険しい道です。

世界遺産

「紀伊山地の霊場と参詣道」

累積標高差

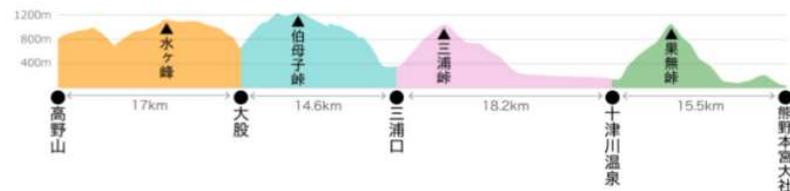
登り：4,080m 下り：4,838m

65.3km 自力踏破

この山行の最高齢参加者は80歳



小辺路ルートは途中の交通機関が非常に少なく、多く場合は高野山に到着して翌朝スタート、大股・三浦口・十津川温泉で宿泊して本宮に到着して宿泊する5日のロングコースとなります。





お花畑を楽しんでいると遠くに見える黒い点

自然界には無い濃い黒色



大小の二頭がうごめく!!

ここは「カムイモンタラ」

アイヌ語で「神々の遊ぶ庭」

正体は親子のヒグマ

- ・我々は黒岳から石室へ向かう登山道co1950地点か発見
- ・ヒグマの親子は桂月岳下co1,900付近、石室から真北に350m程度
- ・水平距離は1,000m程度、遭遇の危険は無いと判断し山行を継続した。
この日は北鎮岳からの下山中に凌雲岳の沢地でもヒグマ一頭を目撃したが無視した

しかし、北鎮岳からの帰路「雲の平」に人だかり…。確認したところ親子熊がハイマツの中に潜んで動かないとの事。しばらく待ったが動きが無いので、熊鈴とホイッスルを吹きながら登山道を外れて接近した。親熊が気づき頭をもたげ、周辺を警戒、目と目が合った!!
逃げ出したいくらいの恐怖感。。。しかし、熊遭遇時の鉄則は、目が合ったらこちらも目を離さない、後ろ向きで背走しては追われるので絶対ダメ。止むを得ず、熊と目を合わせたまま少しづつ距離を取った。結局、熊は動かないため待機していた登山者たちは笛と鈴を鳴らしながら登山道を通った。最後尾を担った私も無事通過。山頂で出会った監視員に聞くとハイマツ帯で子熊に授乳をしていたとの事。